

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

Vol. 31, No.9 ACTA UROLOGICA JAPONICA September 1985

泌尿器科紀要

第31巻 第9号 1985年9月

腎癌患者における術前・術後の血清蛋白の変動	久住 治男・ほか	1519
腎細胞癌の臨床病理学的検討		
“特に組織像と臨床検査所見との関係について”	米田 文男・ほか	1525
腎細胞癌の治療		
第1報 ホルモン療法	小林 幹男・ほか	1531
腎癌に対する α 型インターフェロンの抗腫瘍効果検討:		
病理剖検例を中心に	山内 民男・ほか	1539
1年間で経験した原発性尿管腫瘍7例の臨床的観察	武田 正之・ほか	1553
膀胱移行上皮癌に対するペプロマイシン加膀胱内灌流温熱療法	中嶋 和喜・ほか	1559
膀胱腫瘍に対する cis-Diamminedichloroplatinum (II) の膀胱内注入に関する基礎的研究 II: 膀胱腫瘍患者における cis-Diamminedichloroplatinum の膀胱内注入による影響について	平尾 佳彦・ほか	1565
男子高齢者の排尿障害に関する研究		
第2報: 下部尿路閉塞性疾患および神経因性膀胱患者の尿流量曲線の波型に関する検討	清水 嘉門・ほか	1575
前立腺癌における骨盤内リンパ節郭清術の検討	林正 健二・ほか	1583
過去10年間の水戸済生会総合病院における腫瘍統計	諸角 誠人・ほか	1589
多内分泌腺腫症の2例(I型とIIb型)	江左 篤宣・ほか	1593
後腹膜腔に発生した Extraosseous Osteogenic Sarcoma の1例	平野 敦之・ほか	1601
後腹膜線維化症の診断における CT scan の意義	荒井 陽一・ほか	1609
左腎摘除術後に生じた膀胱癌	増田富士男・ほか	1619
腎盂腎杯憩室結石の1例:		
走査型電子顕微鏡的観察による成因の考察	徳永 周二・ほか	1623
腎と胃に発生した重複癌の2症例	船木 広英・ほか	1629
片側腎無発生を合併した水子宮腔症の1例	若林 昭・ほか	1635
血清 AFP 値上昇を指標として腹膜後腔リンパ節郭清術を施行した小児睾丸腫瘍の1例	竹内 敏視・ほか	1643
VM-26 による難治性睾丸腫瘍の Salvage Therapy	三木 恒治・ほか	1649
前立腺組織内抗菌薬濃度測定に及ぼす手術操作の影響について	川嶋 敏文・ほか	1657
慢性前立腺炎に対する Dolcol の使用経験	谷口 利憲・ほか	1661
泌尿器科領域における NORFLOXACIN (BACCIDAL®) の使用経験	福岡 洋・ほか	1667
複雑性尿路感染症に対する Aztreonam の臨床的検討	森口隆一郎・ほか	1675

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.
Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606
京都大学医学部泌尿器科学教室

購読要項 (1983年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料6,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部あて、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します

投稿規定 (1983年8月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文7頁(400字×28枚程度)図(Fig)10枚、表(Table)5枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、所属機関名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名(山田：または山田・ほか：)と、2語(例：前立腺がん・PSA)からなる **running title** を付す
 - (ロ) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、5語(英文)以内の **Keywords**、抄録本文の順にダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、**Key words**(和文に準ず)、**running title**(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、所属機関名、著者名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, °C, pH などとする。
 - (5) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明文は一括して記載し和文、英文を問わず Table 1., Fig. 2. などとする。英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。図・表は誤りがないことを確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最少限にとどめ、引用個所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例：山田^{1,3,7)}, 田中ら^{1,3,7-10)}によると)
雑誌の場合—著者名(全員)：題名。雑誌名
巻：最初頁～最終頁、発行年
単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
- (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部がおこなう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。

3. 掲載

- (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
- (2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後におこなう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
- (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。

4. 別刷

実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

編集委員：石神 稔次 前川 正信 宮崎 重 新谷 浩
 園田 孝夫 友吉 唯夫 吉田 修(主幹)

泌尿器科紀要 第31巻 第9号 1985年9月25日 印刷 1985年9月30日 発行
発行 吉田 修 顧問 加藤 篤二 発行所 泌尿器科紀要刊行会
〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
